



ニッセイ豪州ハイ・インカム株式ファンド

(毎月決算型)/(資産成長型)

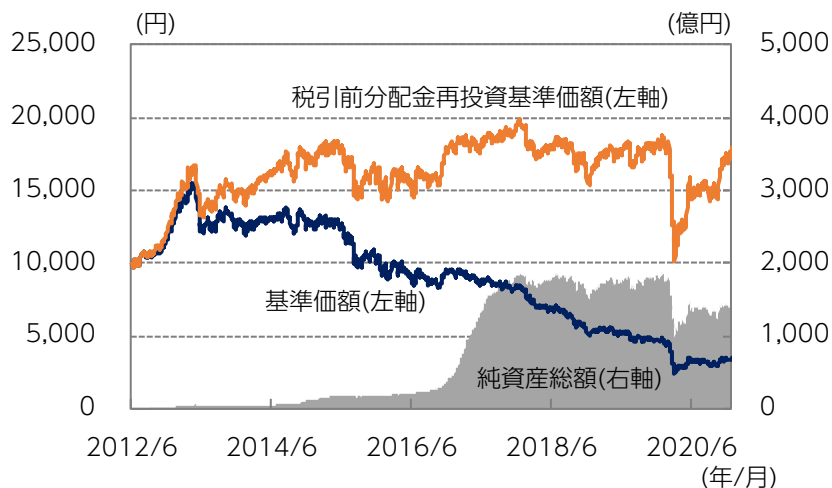
愛称：ラッキー・カントリー/ラッキー・カントリー (資産成長型)

足もとの投資環境とファンドの運用状況について

- 当ファンドはオーストラリアの相対的に配当利回りの高い株式等に投資することにより、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざします。
- 当レポートでは足もとの投資環境とファンドの運用状況についてご説明いたします。

ファンドの運用実績と分配の推移

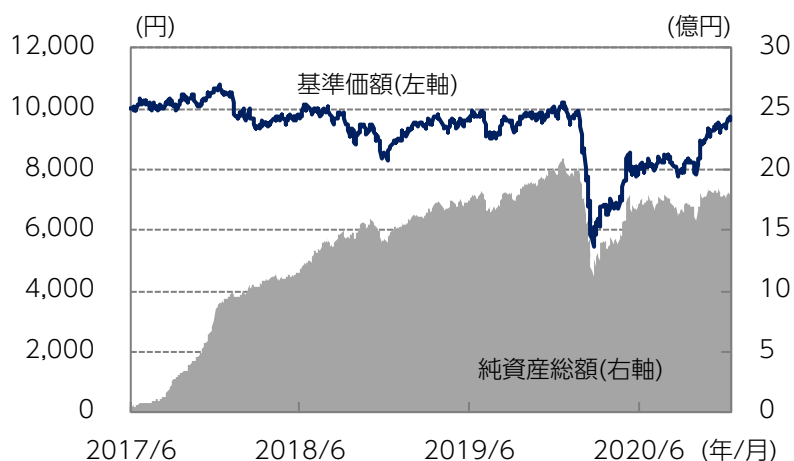
<毎月決算型>



データ期間：2012年6月18日<設定日>～2021年1月15日(日次)

決算	分配金 〔1万口当り、 税引前〕
2012/8～2013/3	各100円
2013/4～2013/12	各130円
2014/1～2018/12	各150円
2019/1～2020/3	各100円
2020/4～2020/12	各70円
累計 (2021年1月15日現在)	13,100円

<資産成長型>



データ期間：2017年6月30日<設定日>～2021年1月15日(日次)

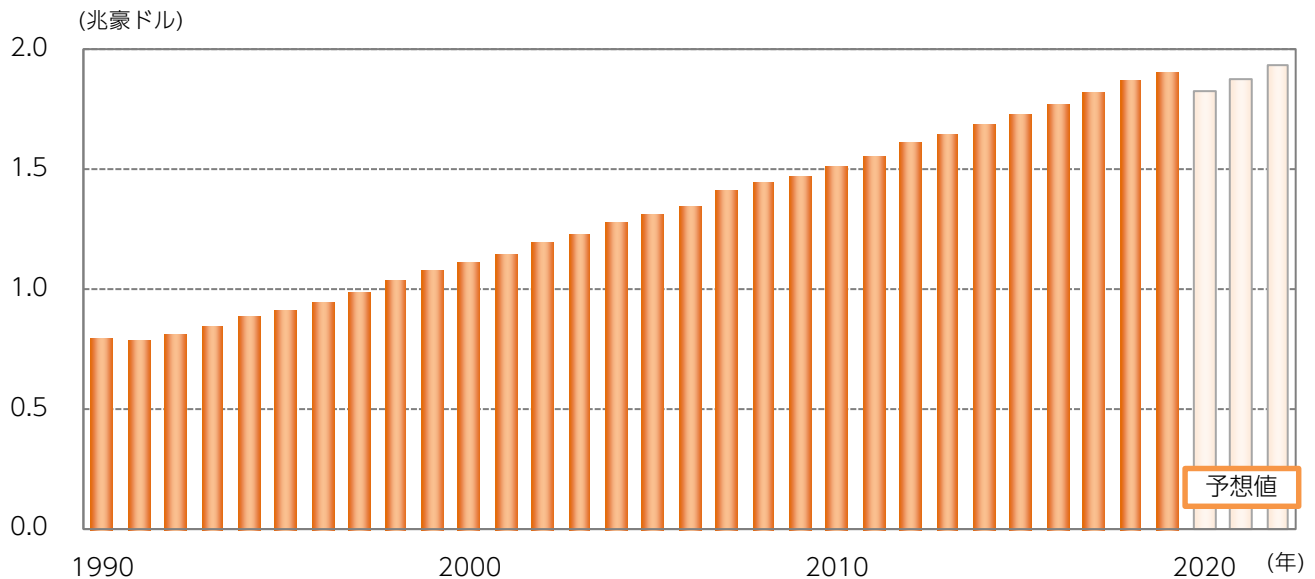
決算	分配金 〔1万口当り、 税引前〕
2017/11	0円
2018/5	0円
2018/11	0円
2019/5	0円
2019/11	0円
2020/5	0円
2020/11	0円
累計 (2021年1月15日現在)	0円

上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。税引前分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を再投資したもとのとして計算しております。運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります(個人受益者の場合)。

【オーストラリア経済】一時的にマイナス成長になるも内需主導で回復が見込まれる

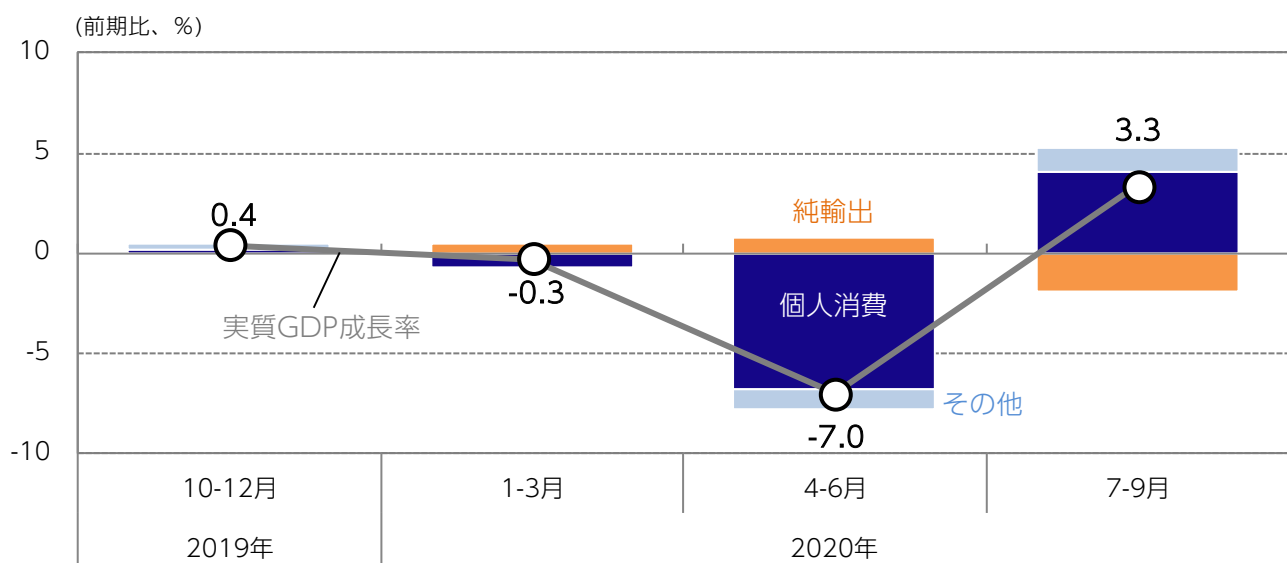
- オーストラリア経済は2019年まで25年以上にわたりプラス成長を持続してきました。新型コロナウイルス感染拡大の影響から2020年通年では一時的にマイナス成長になるものの、足もとでは景気回復の兆しがみえており、2021年以降はプラス成長が見込まれています。
- 2020年4-6月期にはオーストラリア全体で都市封鎖が行われ、個人の買い控えが発生したことなどが実質GDP成長率を大きく押し下げました。その後、7-9月期にはビクトリア州を除いた都市封鎖の緩和が進み、個人消費が回復したことなどから実質GDPは前期比+3.3%のプラス成長に転じており、2020年上半期の景気後退からの脱出を果たしています。

<オーストラリアの経済規模の推移>



出所)IMF(国際通貨基金)のデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 データ期間：1990年～2022年(年次)
 上記は実質GDPの推移、2020年以降は2020年10月時点のIMF予想値

<オーストラリアの実質GDP成長率の寄与度の推移>

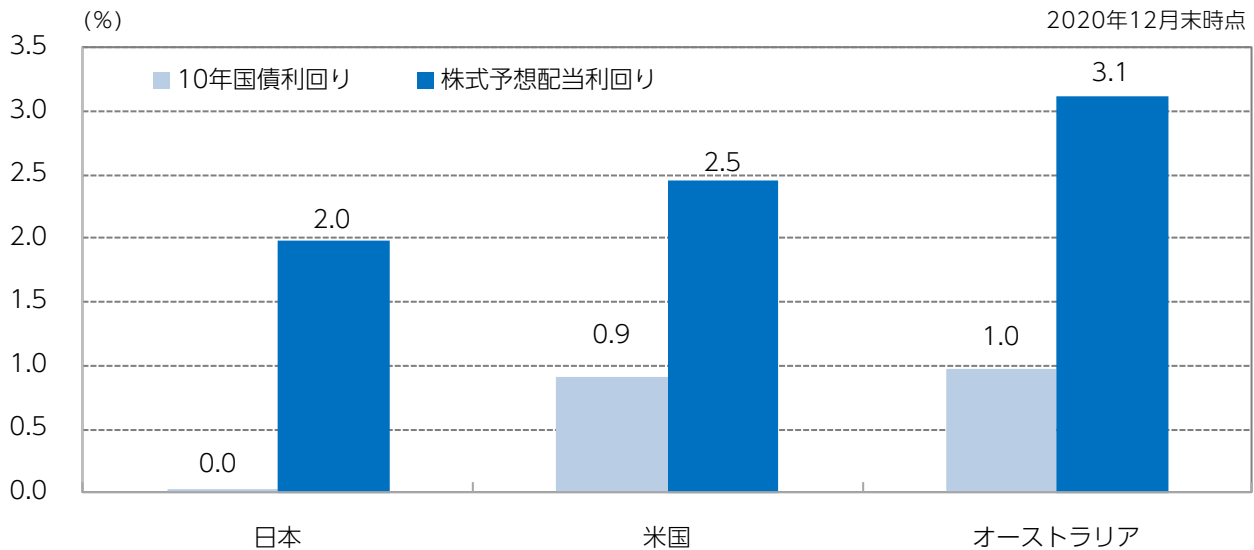


出所)オーストラリア統計局、レグ・メイソン・アセット・マネジメントの情報をもとにニッセイアセットマネジメント作成
 データ期間：2019年10-12月期～2020年7-9月期(四半期毎)

【オーストラリア株式】 相対的に高い配当利回りがトータルリターンを下支え

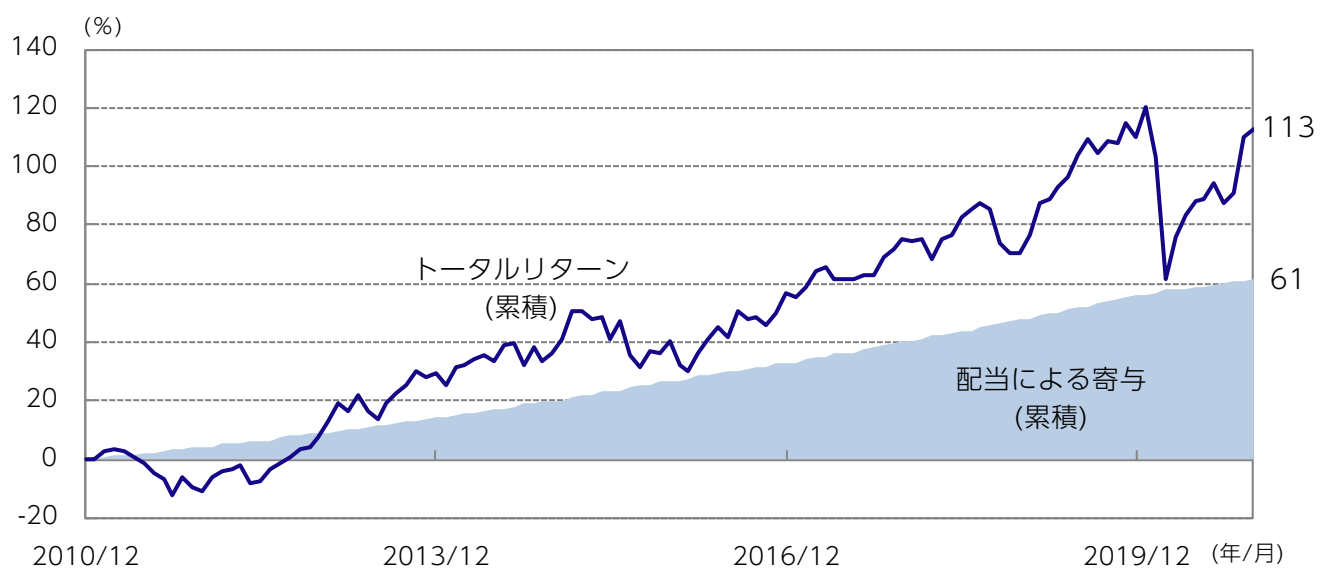
- 新型コロナウイルスの感染拡大による景気悪化リスクに対処するため、各国の金融当局は金融緩和を強化しており、各国国債の利回りは低下しています。一方、株式の配当利回りは国債に比べ高く、特にオーストラリア株式の配当利回りは相対的に高水準にあります。
- 株価は日々変動しますが、オーストラリア株式のトータルリターンの内訳をみると、配当収益が大きく貢献していることがわかります。配当の累積がトータルリターンを下支えする効果が期待できます。

<国債利回りと株式配当利回りの比較>



出所)ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 株式予想配当利回りは、日本：TOPIX、米国：S&P500指数、オーストラリア：S&P/ASX200指数

<オーストラリア株式 トータルリターンの内訳>

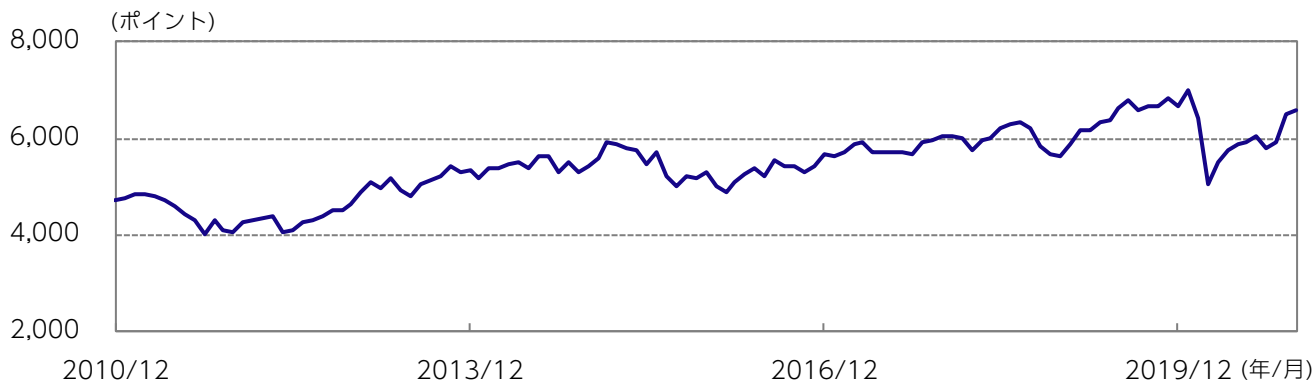


出所)ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 データ期間：2010年12月末～2020年12月末(月次)
 オーストラリア株式：S&P/ASX200指数(配当込み、豪ドルベース)

【オーストラリア株式】 株価は相対的に割安、企業業績拡大にともない上昇が期待

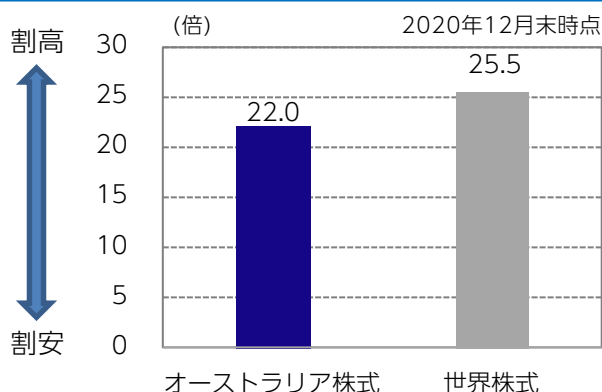
- 株価の割高・割安を判断する指標をみると、PER(株価収益率)・PBR(株価純資産倍率)ともにオーストラリア株式は世界株式と比べ相対的に割安な水準にあります。
- オーストラリアの企業業績は、2020年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で前年比55.2%の減少となりましたが、2021年以降は拡大が見込まれています。足もとでは連邦政府による景気刺激策に加え、RBA(オーストラリア準備銀行)が当面は低金利政策を維持する姿勢を示していることなどが株価を下支えするものとみられ、今後は企業業績の拡大にともない株価の上昇が期待されます。

<オーストラリア株式の推移>

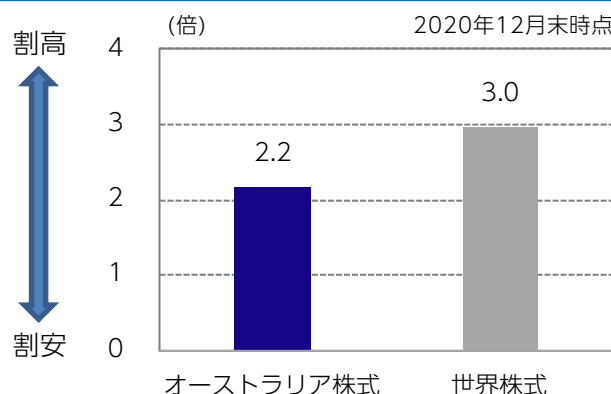


出所)ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
データ期間：2010年12月末～2020年12月末(月次) オーストラリア株式：S&P/ASX200指数(豪ドルベース)

<PERの比較>

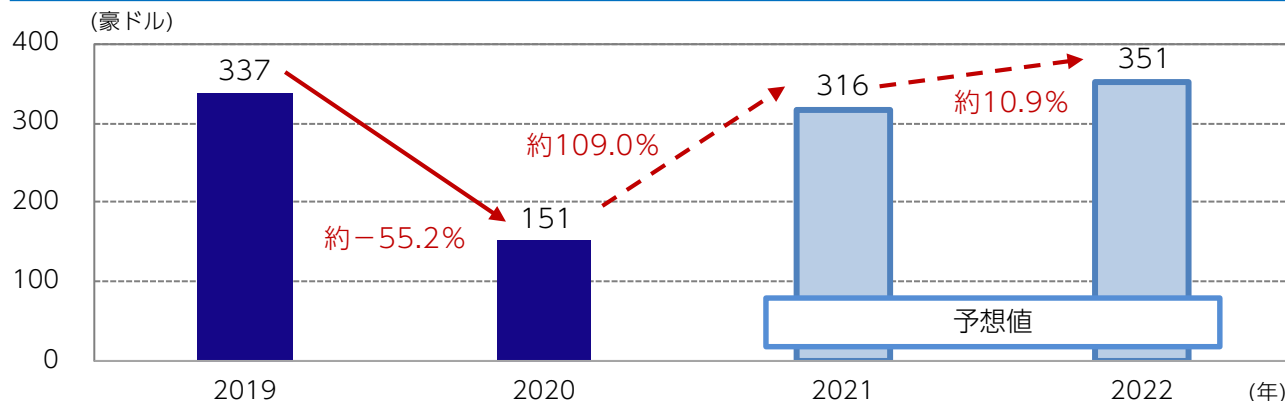


<PBRの比較>



出所)ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
オーストラリア：S&P/ASX200指数、世界株式：MSCIワールド指数

<オーストラリア 企業業績の推移>

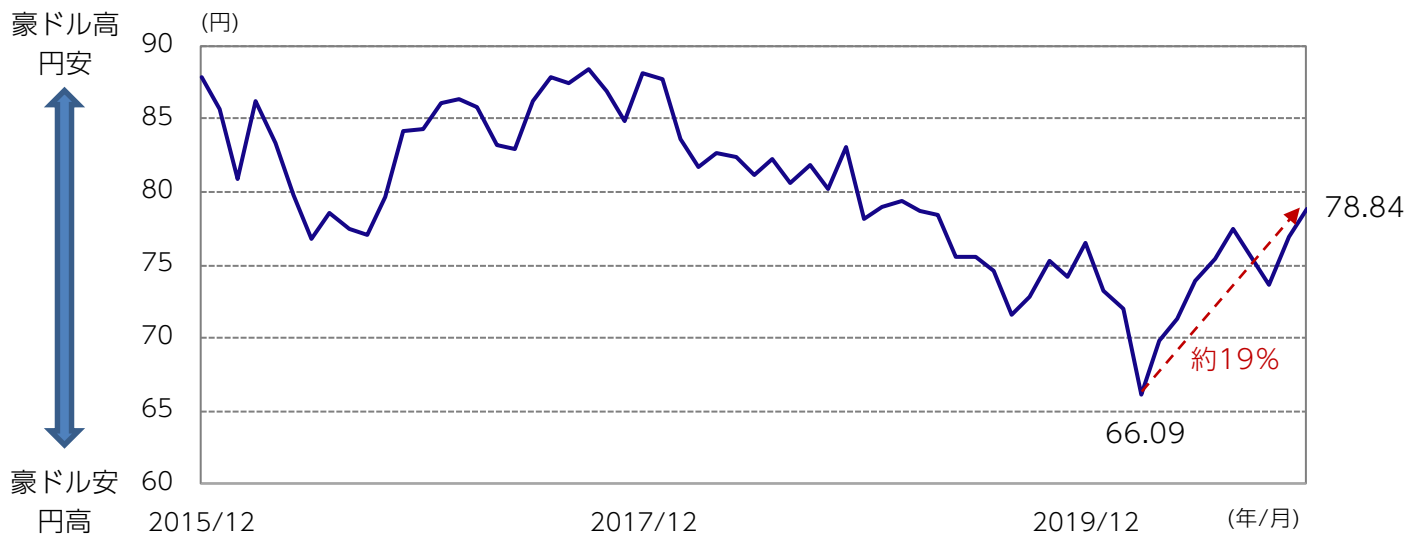


出所)ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
データ期間：2019年～2022年(年次)
企業業績：S&P/ASX200指数のEPS(1株当り純利益) 2021年以降は予想値(2021年1月現在のブルームバーグ集計値)

【オーストラリア通貨(豪ドル) 上昇に転じた豪ドル、堅調な推移がみこまれる

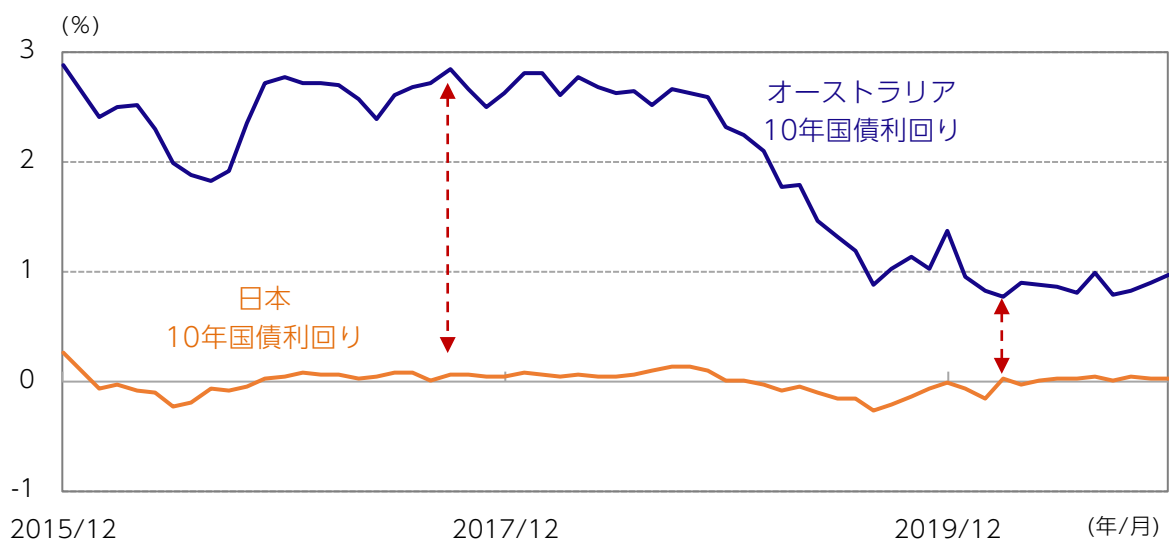
- オーストラリアと日本の金利差の縮小などを受け豪ドル安傾向にあった豪ドルは、新型コロナウイルス感染拡大による投資家心理の悪化から2020年3月には1豪ドル66.09円まで下落しました。
- 2020年4月以降はオーストラリアの金利が下げ止まったことや投資家の過度なリスク回避姿勢が和らいだことから豪ドル高に転じ、12月末時点では3月の底値から約19%上昇しています。
- 今後も新型コロナウイルスの感染状況に注意が必要ですが、ワクチン普及への期待に加え、オーストラリア経済に回復の兆しが広がれば、豪ドルは底堅く推移するとみられます。

<豪ドル/円レートの推移>



出所)ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 データ期間：2015年12月末～2020年12月末(月次)
 豪ドル/円レート：TTM(対顧客電信売買相場仲値)

<国債利回りの推移>

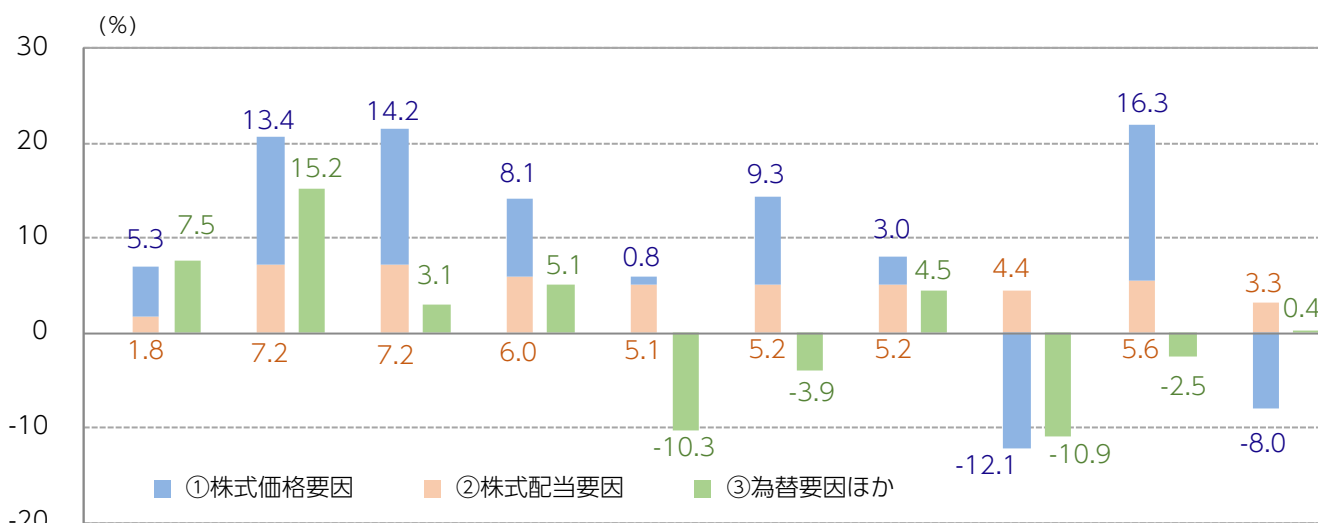


出所)ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 データ期間：2015年12月末～2020年12月末(月次)

<ご参考>パフォーマンスの要因分析

- 以下は、投資対象ファンドのマザーファンドのパフォーマンス要因分析です。
- 2019年末の基準価額は26,733円であったのに対して、2020年12月末の基準価額は25,574円と、1,159円の下落、騰落率は約4.3%の下落となっています。
- 変動要因の内訳をみると、株式価格要因がマイナス2,140円と基準価額の下落要因となる一方、為替要因ほかは97円、株式配当要因は884円と、基準価額の上昇要因となっています。
- 基準価額は2011年9月の設定来で15,574円上昇しております。変動要因の内訳をみると、株式価格要因が6,981円、為替要因ほかはマイナス1,630円であるのに対して、株式配当要因、つまり配当の積み上がり分が10,222円と、基準価額の上昇を大きく支えていることが確認できます。

<LM・オーストラリア高配当株マザーファンドのパフォーマンス要因分析(年別)>



	2011年*	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	設定来
① 株式価格要因	525 円	1,537 円	2,214 円	1,580 円	185 円	2,050 円	722 円	-3,341 円	3,648 円	-2,140 円	6,981 円
② 株式配当要因	177 円	825 円	1,123 円	1,163 円	1,173 円	1,141 円	1,264 円	1,213 円	1,257 円	884 円	10,222 円
③ 為替要因ほか	754 円	1,746 円	479 円	984 円	-2,375 円	-854 円	1,108 円	-2,999 円	-570 円	97 円	-1,630 円
変動要因合計	1,457 円	4,109 円	3,817 円	3,727 円	-1,017 円	2,337 円	3,095 円	-5,127 円	4,335 円	-1,159 円	15,574 円
④ 基準価額	11,457 円	15,566 円	19,383 円	23,110 円	22,093 円	24,430 円	27,525 円	22,398 円	26,733 円	25,574 円	-
⑤ 騰落率(前年比)	14.6 %	35.9 %	24.5 %	19.2 %	-4.4 %	10.6 %	12.7 %	-18.6 %	19.4 %	-4.3 %	-

出所)レグ・メイソン・アセット・マネジメントのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

*2011年はマザーファンド設定日(2011年9月29日以降)

データ期間: 2011年9月29日~2020年12月30日(年次)

上記は、当ファンドが主に投資対象とする「LM・オーストラリア高配当株ファンド(適格機関投資家専用)」のマザーファンドの運用実績を示したものであり、当ファンドの運用実績ではありません。あくまでご参考としてお考えください。なお、株式要因にはREIT(不動産投資信託)が含まれます。

ファンドの特色

- ① オーストラリア株式等に実質的に投資することにより、配当等収益の確保と信託財産の中長期的な成長をめざします。
 - ② オーストラリア株式等の実質的な運用はレッグ・メイソン・アセット・マネジメント・オーストラリア・リミテッドが行います。
 - ③ 決算頻度および配分方針の異なる2つのファンドから選択いただけます。
 - 毎月決算型：原則として、毎月28日(休業日の場合は翌営業日)の決算時に収益分配を行います。
 - ・ 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して決定します。分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。
 - 資産成長型：年2回(5・11月の各28日。休業日の場合は翌営業日)決算を行います。
 - ・ 信託財産の十分な成長に資することに配慮し、収益の分配を行わないことがあります。
- ※将来の分配金の支払いおよび水準について、保証するものではありません。
 ※販売会社によっては、どちらか一方のファンドのみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド(指定投資信託証券を含みます)は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

主な変動要因

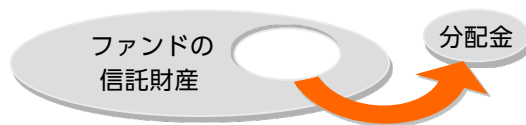
株式投資リスク		株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化(倒産に至る場合も含む)等により、価格が下落することがあります。
不動産投資信託(リート)投資リスク	保有不動産に関するリスク	リートの価格は、リートが保有する不動産の価値および賃貸料収入の増減等、また不動産市況や景気動向等の影響を受け変動します。リートが保有する不動産の賃貸料や稼働率の低下、また自然災害等によって保有する不動産に損害等が生じた場合、リートの価格が下落することがあります。
	金利変動リスク	リートは、金利が上昇する場合、他の債券の利回り等との比較から売却され、価格が下落することがあります。また、金融機関等から借入れを行うリートは、金利上昇時には金利負担の増加により収益性が悪化し、リートの価格が下落することがあります。
	信用リスク	リートは一般の法人と同様に倒産のリスクがあり、リートの経営や財務状況が悪化した場合、リートの価格が下落することがあります。
	リートおよび不動産等の法制度に関するリスク	リートおよび不動産等に関する法制度(税制・建築規制等)の変更により不動産の価値および収益性が低下する場合、リートの価格が下落することおよび分配金が減少することがあります。
為替変動リスク		原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。
流動性リスク		市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

・基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

ファンドで分配金が支払われるイメージ

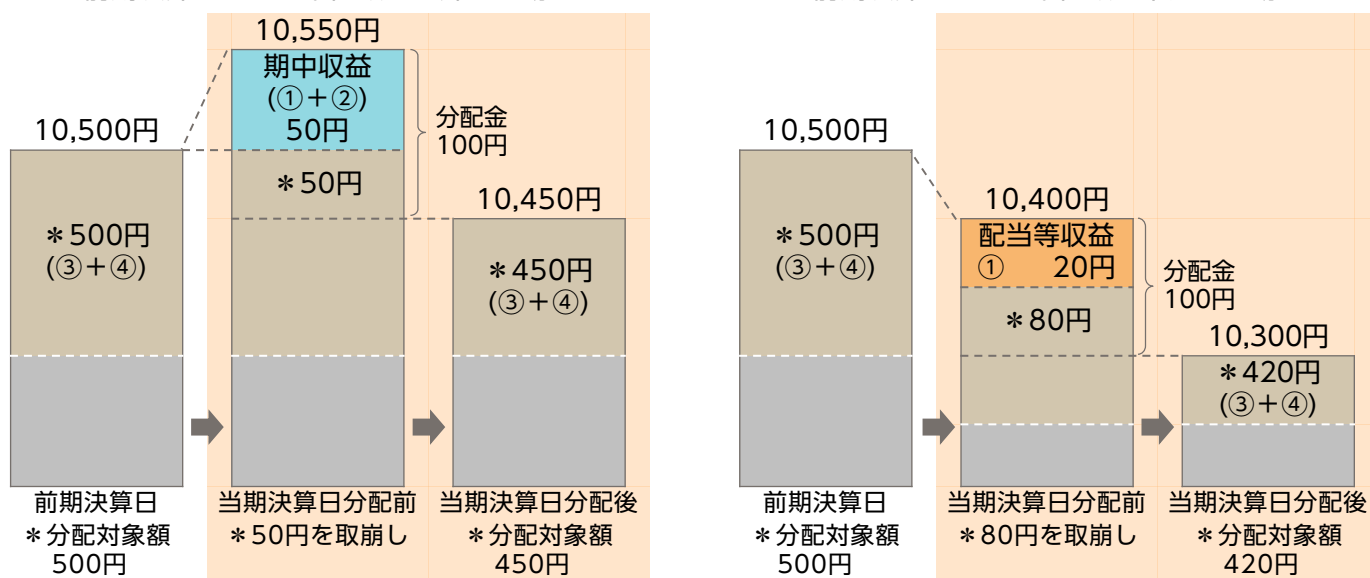


- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合

前期決算日から基準価額が下落した場合



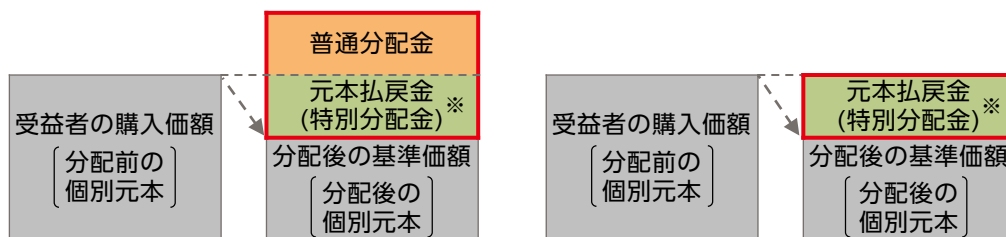
- 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、収益分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
 分配準備積立金：期中収益(①および②)のうち、当期の分配金として支払われず信託財産に留保された金額をいい、次期以降の分配金の支払いにあてることができます。
 収益調整金：追加型株式投資信託において追加設定が行われることによって、既存の受益者の分配対象額が減らないようにするために設けられた勘定です。

❗ 上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※実質的に元本の一部払戻しに相当する元本払戻金(特別分配金)が支払われると、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

普通分配金：個別元本(受益者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
 元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

- 普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料 (1万口当り)	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に 3.3%(税抜3.0%)を上限 として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ※ 料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金時	信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎 日	運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に年率1.21%(税抜1.1%)をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。		
		投資対象とする 指定投資信託証券	LM・オーストラリア高配当株ファンド (適格機関投資家専用)	年率0.616% (税抜0.56%)
			ニッセイマネーマーケットマザーファンド	ありません。
	実質的な負担	ファンドの純資産総額に 年率1.826%(税抜1.66%)程度 をかけた額となります。		
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.011%(税抜0.01%)をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。		
随 時	その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。また、ファンドが投資対象とするLM・オーストラリア高配当株ファンド(適格機関投資家専用)において、実質的に投資する投資信託証券には運用報酬等の費用がかかりますが、銘柄等が固定されていないため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。		

- ! 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ! 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご留意いただきたい事項

- 投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のものとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- 当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等(目論見書補完書面を含む)の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は保険契約や金融機関の預金ではなく、保険契約者保護機構、預金保険の対象とはなりません。証券会社以外の金融機関で購入された投資信託は、投資者保護基金の支払対象にはなりません。
- 当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- S&P各種指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はS&Pダウ・ジョーンズ・インデックスに帰属します。S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスは同社が公表する各指数またはそれに含まれるデータの正確性あるいは完全性を保証するものではなく、また同社が公表する各指数またはそれに含まれるデータを利用した結果生じた事項に関して保証等の責任を負うものではありません。
- MSCI各種指数は、MSCI Inc. が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

販売会社一覧

※ 販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合もあります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	登録金融機関 登録金融商品取引業者	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人第一種金融商品取引業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	取扱販売会社名	登録金融機関 登録金融商品取引業者	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人第一種金融商品取引業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会
あかつき証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○		株式会社きらやか銀行	○	東北財務局長(登金)第15号	○			
auカブコム証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○		株式会社佐賀銀行	○	福岡財務支局長(登金)第1号	○		○	
株式会社SBI証券	○	関東財務局長(金商)第44号	○		○		株式会社四国銀行	○	四国財務局長(登金)第3号	○			
岡三オンライン証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第52号	○	○	○		株式会社清水銀行	○	東海財務局長(登金)第6号	○			
きらぼしライフデザイン証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第3198号	○				株式会社ジャパンネット銀行	○	関東財務局長(登金)第624号	○		○	
大熊本証券株式会社	○	九州財務局長(金商)第1号	○				株式会社但馬銀行	○	近畿財務局長(登金)第14号	○			
東海東京証券株式会社	○	東海財務局長(金商)第140号	○		○		株式会社筑邦銀行	○	福岡財務支局長(登金)第5号	○			
内藤証券株式会社	○	近畿財務局長(金商)第24号	○		○		株式会社千葉興業銀行	○	関東財務局長(登金)第40号	○			
ひろぎん証券株式会社	○	中国財務局長(金商)第20号	○				株式会社中京銀行	○	東海財務局長(登金)第17号	○			
松井証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第164号	○		○		株式会社中国銀行	○	中国財務局長(登金)第2号	○		○	
マネックス証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○		株式会社トマト銀行	○	中国財務局長(登金)第11号	○			
楽天証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○		株式会社富山第一銀行	○	北陸財務局長(登金)第7号	○			
株式会社あおぞら銀行	○	関東財務局長(登金)第8号	○		○		株式会社長崎銀行	○	福岡財務支局長(登金)第11号	○			
株式会社阿波銀行	○	四国財務局長(登金)第1号	○				株式会社南都銀行	○	近畿財務局長(登金)第15号	○			
株式会社関西みらい銀行	○	近畿財務局長(登金)第7号	○		○		株式会社百十四銀行	○	四国財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社紀陽銀行	○	近畿財務局長(登金)第8号	○				株式会社三重銀行	○	東海財務局長(登金)第11号	○			
株式会社きらぼし銀行	○	関東財務局長(登金)第53号	○		○		三菱UFJ信託銀行株式会社	○	関東財務局長(登金)第33号	○	○	○	
株式会社きらぼし銀行(委託金融商品取引業者 きらぼしライフデザイン証券株式会社)	○	関東財務局長(登金)第53号	○		○		株式会社みなと銀行	○	近畿財務局長(登金)第22号	○		○	
							株式会社山形銀行	○	東北財務局長(登金)第12号	○			
							株式会社山梨中央銀行	○	関東財務局長(登金)第41号	○			

● 販売会社によっては、どちらか一方のファンドのみの取扱いとなる場合があります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター：0120-762-506 (9:00~17:00 土日祝日・年末年始を除く) ホームページ：https://www.nam.co.jp/
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	
三菱UFJ信託銀行株式会社	